

水産の窓

サバ類の漁況と秋漁の予測

7 - No. 1 4
令和 7 年 9 月 5 日
茨城県水産試験場

1. 北部まき網サバ類水揚量の推移と資源状況

三陸～房総沖を主漁場とする北部まき網によるサバ類水揚量は、H23 年以降、H28 年の 30.7 万トンまで増加傾向で推移しましたが、H29 年からは減少傾向となっています。特に R4 年からは記録的な不漁が続いており、R6 年の水揚量は 2.0 万トンと過去最低となり、R7 年 1～6 月の水揚量も前年同期をさらに下回っています (図 1)。

また、H27 年頃から魚体の成長や成熟の遅れが見られており、R4 年以降加入尾数が減少し、資源量も減少しています。

さらに、近年のまき網の不漁の要因として、北からの冷たい親潮が弱まっていることや、R4 年秋以降、南からの暖かい黒潮続流が三陸沖まで北偏したこと等の海洋環境の変化が挙げられます。これらの影響により、マサバが道東沖から漁場となる三陸～常磐沖へ回遊する時期の遅れや、漁期の短縮化が発生していると推測されます。

2. 秋漁の漁況予測

8 月 29 日に気象庁より 7 年 9 か月継続した黒潮大蛇行が R7 年 4 月に終息したとの発表がありました。また、春先には親潮系冷水が常磐沖まで南下し、水温が低下するなど、三陸～常磐沖でも海洋環境に変化の兆しが見られています (図 2)。金華山沖の 5 月上旬の水温と夏季～秋季 (8～10 月) の漁場形成の関係から、今年は金華山沖の水温が低く、三陸北部よりも南部海域が主漁場になりやすいと予測されます。

黒潮大蛇行の終息によって黒潮続流に変化が起こる可能性がありますが、資源が減少傾向にあることや、直近 (R7 年 1～6 月) の水揚げ状況から判断して、サバ類の漁獲が前年に比べ大きく増加することは考えにくい状況です。

これらのことから、今年秋漁 (9～12 月) のまき網漁場は、10 月までは道東～三陸南部海域、11～12 月は三陸北部海域～犬吠埼沖に主に形成されると予測されます。また、来遊量は低調であった前年並～下回ると予測されます。市場調査での体長組成や年齢査定の結果から、漁獲される魚体の主体は、マサバ体長 24～37cm (2 歳魚、3 歳魚、体重 130～570g) で、20～30cm (1 歳魚、70～280g) および 28cm 以上 (4 歳以上、220g 以上) も漁獲される見込みです。(回遊性資源部 荒井)

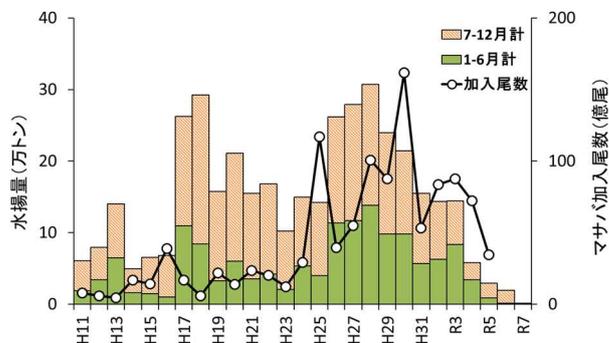


図 1 北部まき網サバ類水揚量とマサバ資源加入尾数 (令和 7 年水揚量は 7 月分まで)

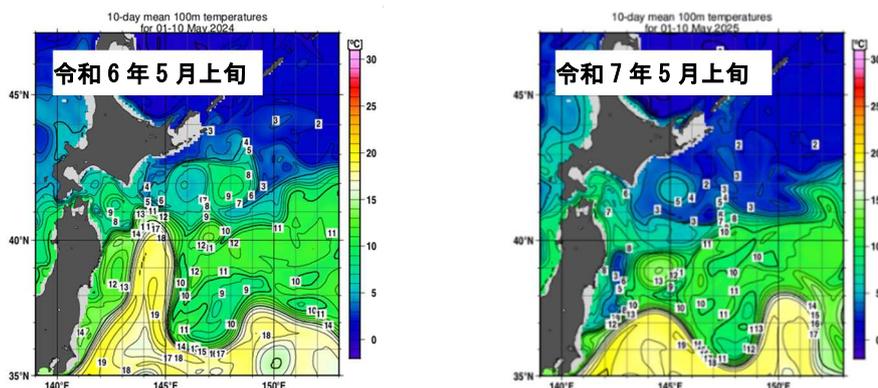


図 2 R6 年春季と R7 年春季の海況の比較 (100m 深水温、気象庁 HP より引用)
(左: 令和 6 年 5 月上旬、右: 令和 7 年 5 月上旬)